

## 2015年度環境会計

【集計範囲】(株)モスフードサービス(本社、事務所及び直営店) 【対象期間】2015年4月1日～2016年3月31日  
 【参考】環境省環境会計ガイドライン(2005年版)

2015年度は、設備投資において改装等による排水設備投資が増加しました。また、新店においてはLED照明設備も継続して導入しています。全店売上が前年比106.4%と増加した中、店舗のエネルギーの効率使用を進めた結果、直営店においても電気、ガスともに使用量を削減しています。物流拠点の見直しにも取り組み倉庫廃棄物量が大幅に削減されました。

### 環境保全コスト

単位:千円

分類	主な取組み内容	投資額	費用額	増減額(前年比)		
				投資額	費用額	
① 事業エリア内コスト		34,150	96,486	16,554	8,705	
内訳	①-1 公害防止コスト	排水設備投資 下水道料金の支払	27,433	53,900	11,827	9,635
	①-2 地球環境保全コスト	空調機・LED照明設備投資 省電力機器保守	6,717	3,451	4,727	▲ 100
	①-3 資源循環コスト	事業系廃棄物のリサイクル及び廃棄処理	0	39,136	0	▲ 830
② 上・下流コスト	容器包装リサイクル協会費用	0	1,125	0	▲ 442	
③ 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの運用・教育・環境情報の開示	0	46,559	0	▲ 3,348	
④ 研究開発コスト	環境保全に資する店舗設計並びに実験店舗の構築	0	309	▲ 140	▲ 608	
⑤ 社会活動コスト	コミュニケーション・社会貢献活動	0	1,359	0	▲ 24	
⑥ 環境損傷対応コスト		0	0	0	0	
⑦ その他のコスト		0	0	0	0	
合計		34,150	145,838	16,414	4,284	

(株)モスフードサービス(単体)決算数値 (2015年度)

投資額の総額	759,556	千円
研究開発費の総額※注1	32,171	千円

※注1:環境保全コストの「④研究開発コスト」は含んでおりません。

### 環境保全効果および経済効果

環境保全効果の分類	環境保全効果を表す指標					削減量 (前年比)	経済効果 (前年比) 単位:千円
	項目	単位	2014年度	2015年度			
①事業活動に投入する資源に関する効果	電気使用量〔本社・事務所〕 ※1	◎ 千kWh	518	507	12	295	
	電気使用量〔直営店〕 ※1	◎ 千kWh	9,395	9,111	285	7,172	
	都市ガス使用量〔本社・事務所〕 ※2	◎ 千m <sup>3</sup>	2	2	▲ 0	▲ 26	
	都市ガス使用量〔直営店〕 ※2	◎ 千m <sup>3</sup>	274	269	5	670	
	LPガス使用量〔直営店〕 ※2	◎ 千m <sup>3</sup>	29	28	1	369	
	水道使用量〔本社・事務所〕	千m <sup>3</sup>	1	2	▲ 0	▲ 40	
	水道使用量〔直営店〕	千m <sup>3</sup>	108	107	1	573	
	空調エネルギー〔本社〕	◎ GJ	1,666	1,549	117	433	
	コピー用紙使用量〔本社・事務所〕	千枚	1,901	1,620	281	▲ 180	
	CO2排出量(◎を換算)	t-CO <sub>2</sub>	6,314	5,945	369	-	
②事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	事業系一般廃棄物〔本社・事務所〕	t	6	6	0	104	
	倉庫廃棄物処分	t	233	103	154	2,703	
経済効果合計						5,510	

<CO2換算係数>

改正省エネ法の換算係数を元に作成しています。

※1 電気 : (2014年度)=電力各社発表の2013年度調整前の係数、(2015年度)=電力各社発表の2014年度調整前の係数

※2 ガス : 都市ガス(2014・2015年度)2.23kg-CO<sub>2</sub>/m<sup>3</sup>

: LPガス(2014・2015年度)3.00kg-CO<sub>2</sub>/kg \* 重量換算0.502千m<sup>3</sup>/t \* 単位発熱量(2014・2015年度)50.8MJ/kg

環境会計作成にあたって

- ・環境保全コストの増減額の▲は、減少額を表しています。
- ・環境保全効果および経済効果の▲は、共に増加量、費用増加額を表しています。
- ・複合コストの計上は簡便な基準による按分集計を採用しています。